

令和5年度（2023年度）

帯広圏総合都市交通体系調査

第2回 協議会

交通マスタープラン検討にあたっての与条件について

令和6年3月19日（火曜日） 14:00～

交通マスタープラン検討にあたっての与条件の整理

検討の視点	20年後の見通し	将来像設定に向けた与条件の提案
人口	<p><u>帯広圏の総人口^[1]</u> 253,926人(R2年)⇒217,959人(R22年)</p> <p><u>年少人口^[1]</u> 30,362人(R2年)⇒20,238人(R22年)</p> <p><u>老年人口^[1]</u> 76,501人(R2年)⇒85,180人(R22年)</p> <p><u>85歳以上人口(※自動車運転が困難と想定する年代)^[1]</u> 13,679人(R2年)⇒24,108人(R22年)</p>	<p>1.【確認】人口フレーム ●各市町の国立社会保障・人口問題研究所の将来人口を使用し、将来の人口フレームを設定。</p>
社会情勢	<p>2024年問題を契機とした、バス・タクシー・物流等のドライバーの輸送力低下に伴う、住民の生活水準低下の懸念。</p> <p><u>バス・タクシードライバーの年齢構成^[2]</u> 60歳代以上が全体の55.1%(R5年)</p>	<p>2.【確認】将来的に確保できるサービス水準の想定 ●帯広圏(十勝圏、帯広市、音更町)で策定されている地域公共交通計画に基づき、交通ネットワーク(バス路線等)は現状を維持する想定。</p>
都市施設	<p>●建築物の老朽化の進行 <u>建築から50年以上経過した建築物^[3]</u> 169件(R6年)⇒689件(R26年)</p> <p>●老朽化にともなう建替え・新設統廃合など</p>	<p>3.【確認】供用が終了する建築物の有無と再開発等の想定 ●老朽化した建物については、修繕等で引き続き供用していくことを想定。</p> <p>4.【確認】集客施設や公共施設新設等の想定 ●都市施設や学校についての建替え・新設や統廃合はないと想定。</p>

出典

[1]令和2年人口：R2国勢調査 令和22年人口：国立社会保障・人口問題研究所

[2]令和5年事業者ヒアリング調査

[3]平成26年都市計画基礎調査データより官公署施設、専用商業施設(集合販売施設、宿泊施設)、店舗施設、文教施設(教育施設、文化施設)、厚生施設(運動施設)を抽出

交通マスタープラン検討にあたっての与条件の整理

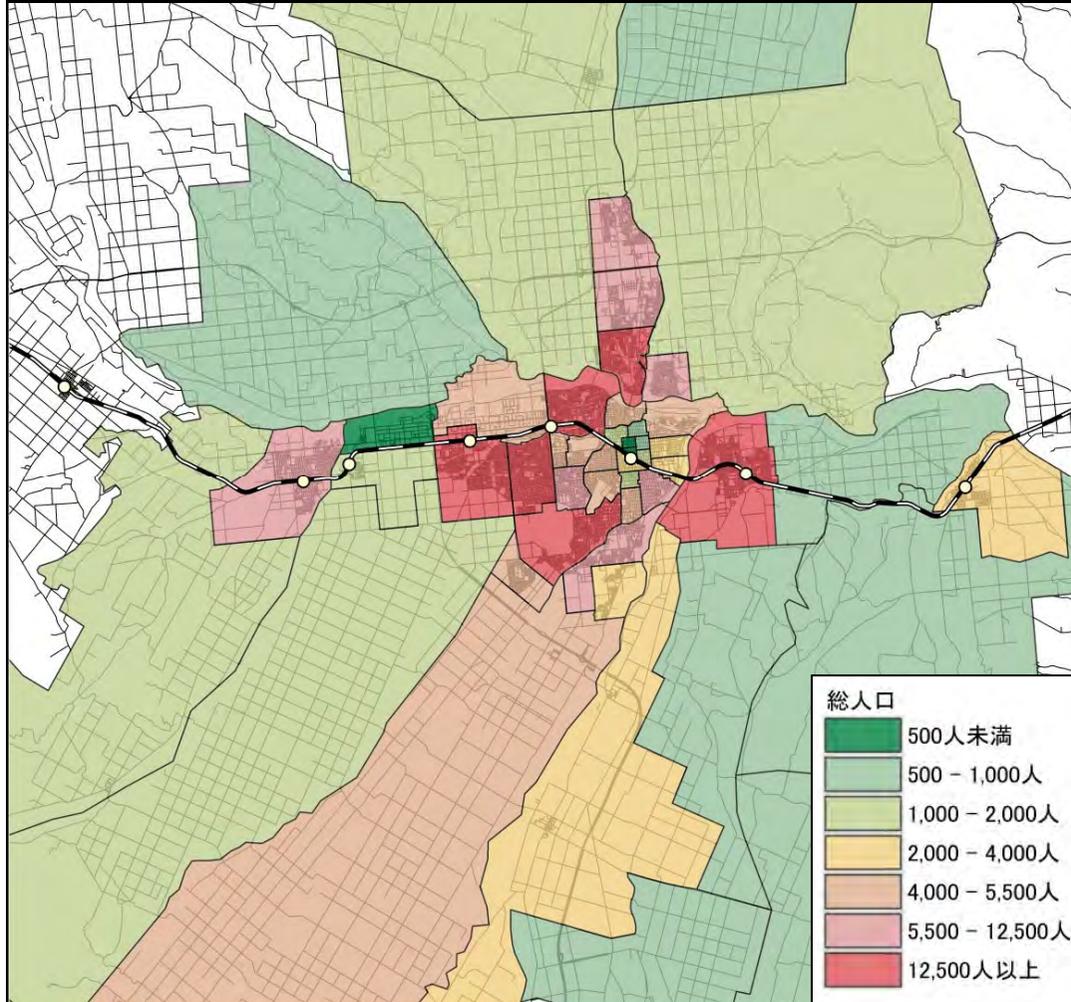
検討の視点	20年後の見通し	将来像設定に向けた与条件の提案
観光	<ul style="list-style-type: none"> ●帯広圏の観光入込客数^[1] 4,955千人(R元年) ⇒3,038千人(R3年 ※コロナ禍) ⇒5,218千人(R4年) <p>【補足】 国では、将来の観光入込客数の見通しを設定しており、2030年までに6,000万人(2020年比で1.5倍)としている(※北海道も同様の伸び率を目標)ものの、帯広圏においては、具体的な将来見通しは設定していない。</p>	<p>5.【確認】コロナ禍後の観光入込数の想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現状の観光入込客数が継続すると想定。
災害	<ul style="list-style-type: none"> ●帯広圏では、台風・大雨時に伴う広範囲の浸水被害や、十勝平野断層帯主部を震源とする地震による被害の発生可能性があり、20年後もこのリスクは継続する。 	<p>6.【確認】想定する災害種別・規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害は洪水・台風・大雨時の浸水発生、及び地震発生を想定。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●帯広市中心部の賑わいの低下 ●十勝物流拠点構想 ・帯広川西IC付近や芽室町等を候補地に物流拠点の形成が計画 ●ゼロカーボンシティの実現(2050年まで)に向けた取り組みの推進 	<p>7.【確認】帯広市中心部の再開発事業等の想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●再開発事業等については、藤丸や長崎屋が再建されることを想定。 ●藤丸と長崎屋の施設規模は、人口減少下においても継続的な営業可能な施設規模を想定(※再建計画に即した条件設定に留意)。 ●その他の再開発は、生じない想定。 <p>8.【確認】物流拠点構想の想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●帯広川西IC付近を候補地として想定。 ●施設規模は令和6年度中に得られる範囲の情報に基づき設定。

出典

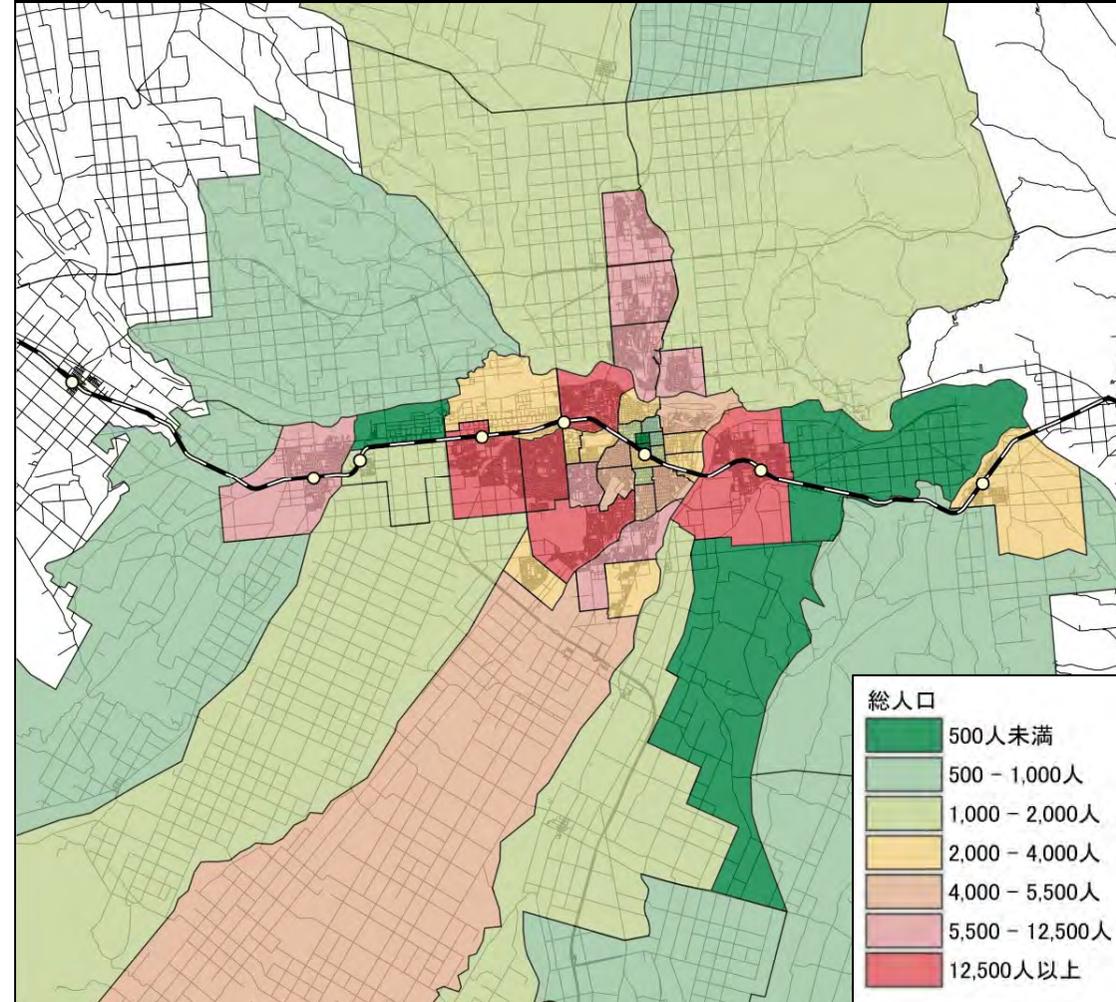
[1]北海道観光入込客数調査報告書

参考データ【総人口】

令和2年総人口（令和2年国勢調査結果）

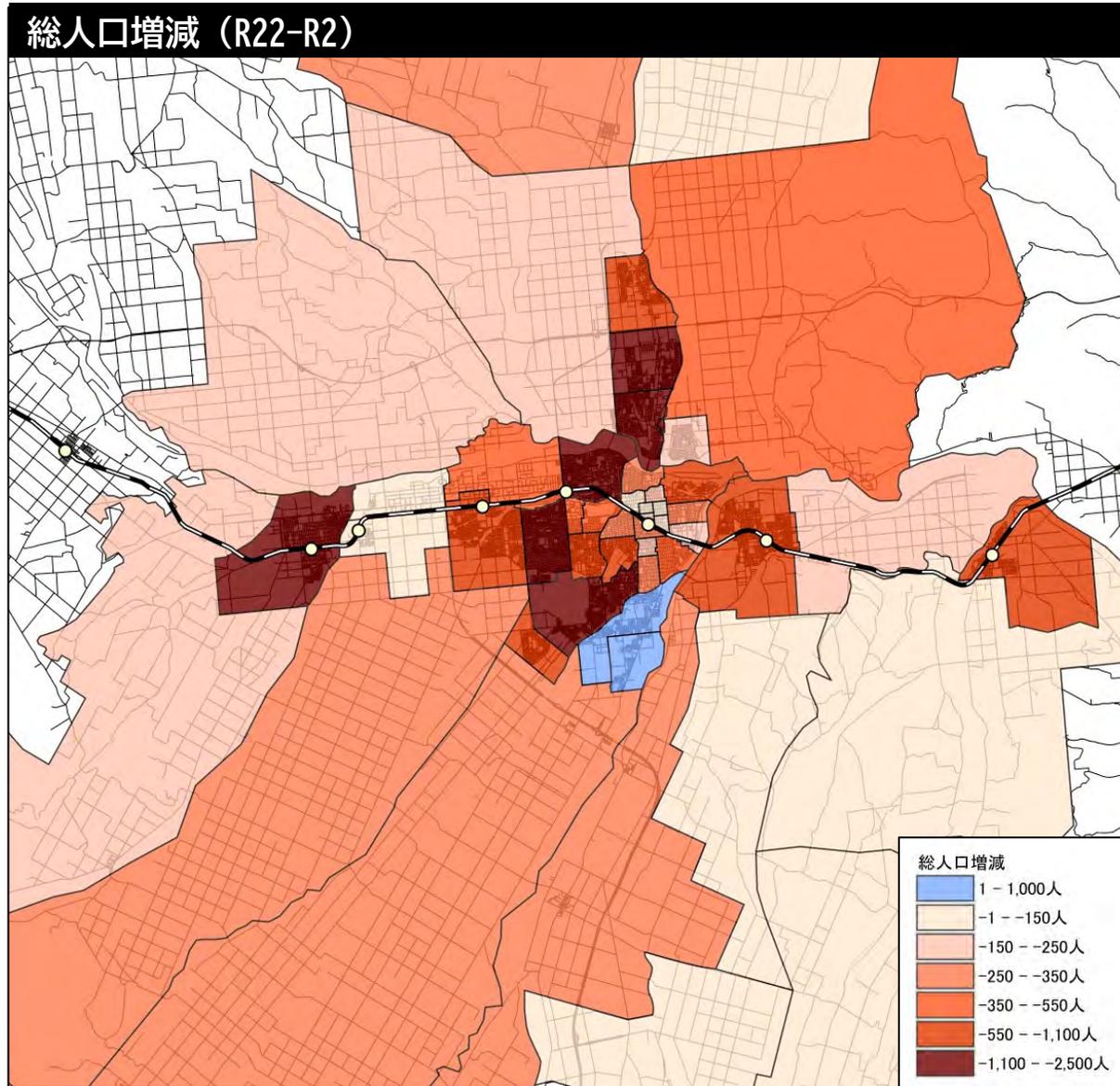


令和22年総人口（国立社会保障・人口問題研究所推計値）



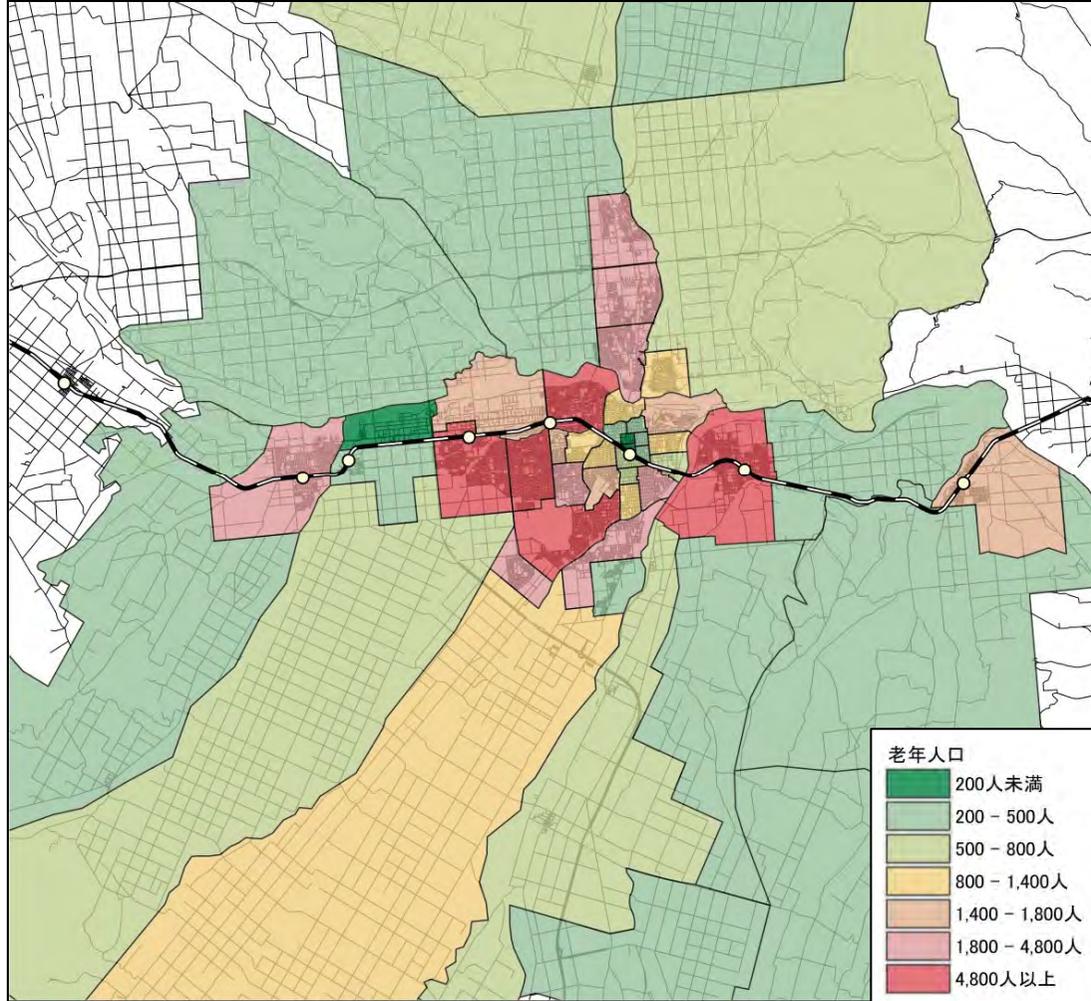
参考データ【総人口】

▼将来の人口については、概ね全域で減少となる推計となっているが、稲田地区は、増加する推計となっている。

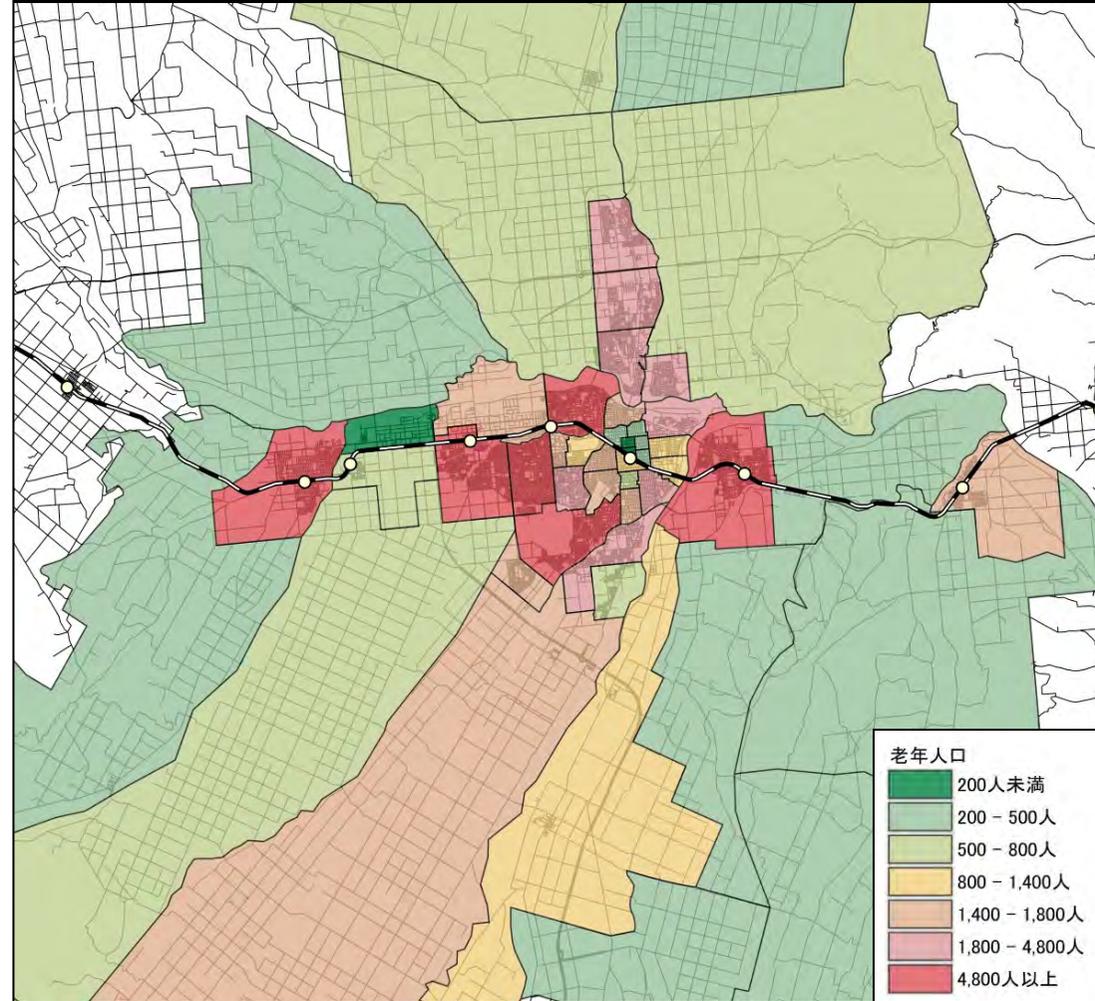


参考データ【老年人口】

令和2年老年人口（令和2年国勢調査結果）

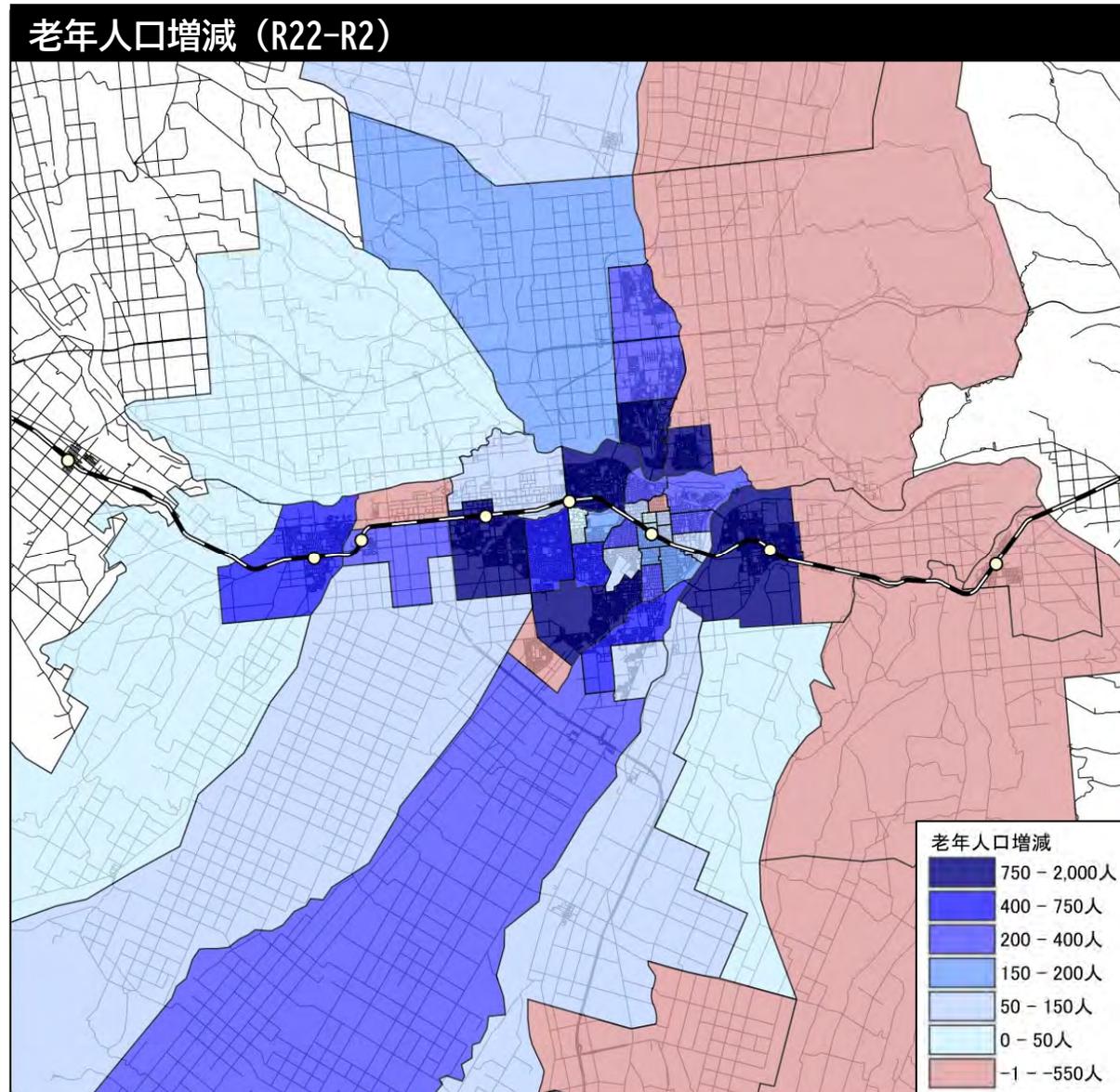


令和22年老年人口（国立社会保障・人口問題研究所推計値）



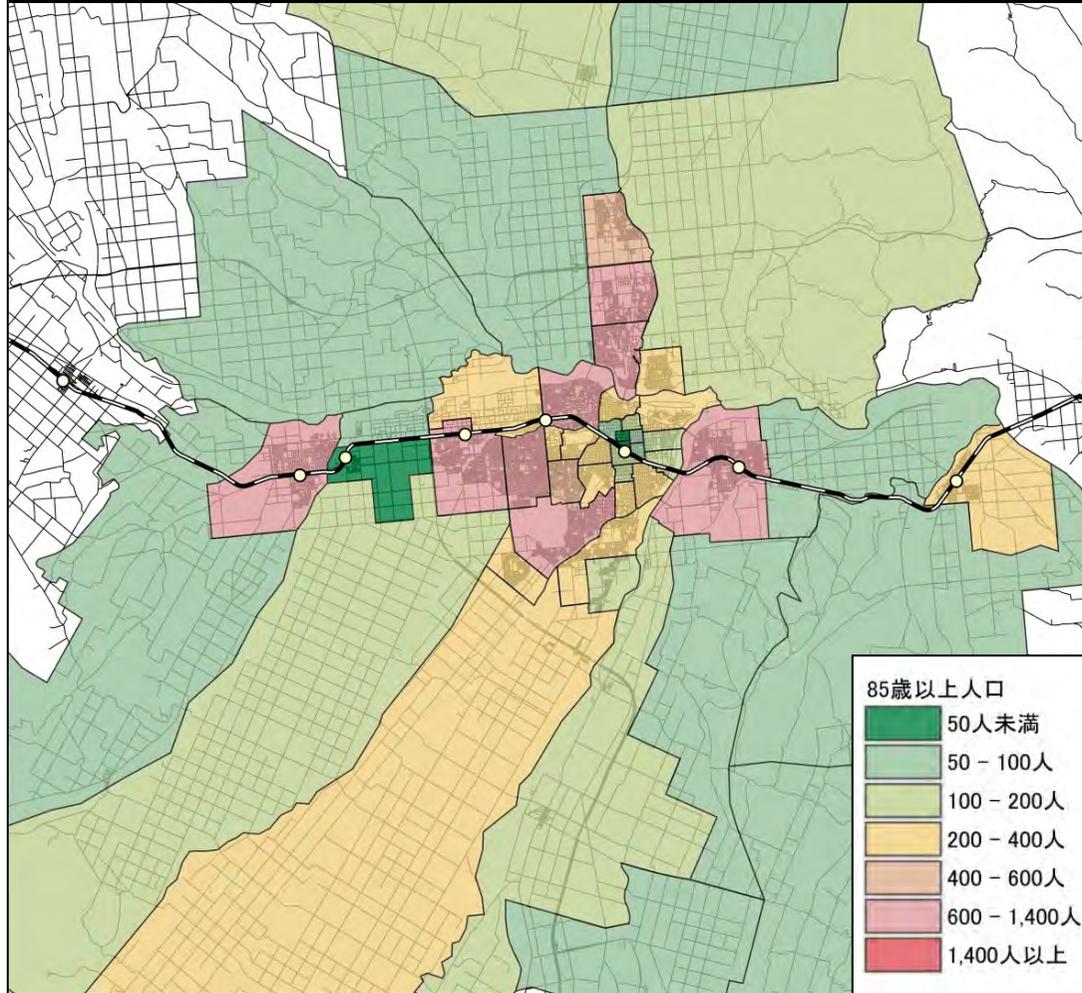
参考データ【老年人口】

▼将来の老年人口について、一定程度の地区においては増加する推計となっているが、帯広市都心部や大空地区、東芽室地区、十勝川温泉地区、幕別本町等は減少する推計となっている。

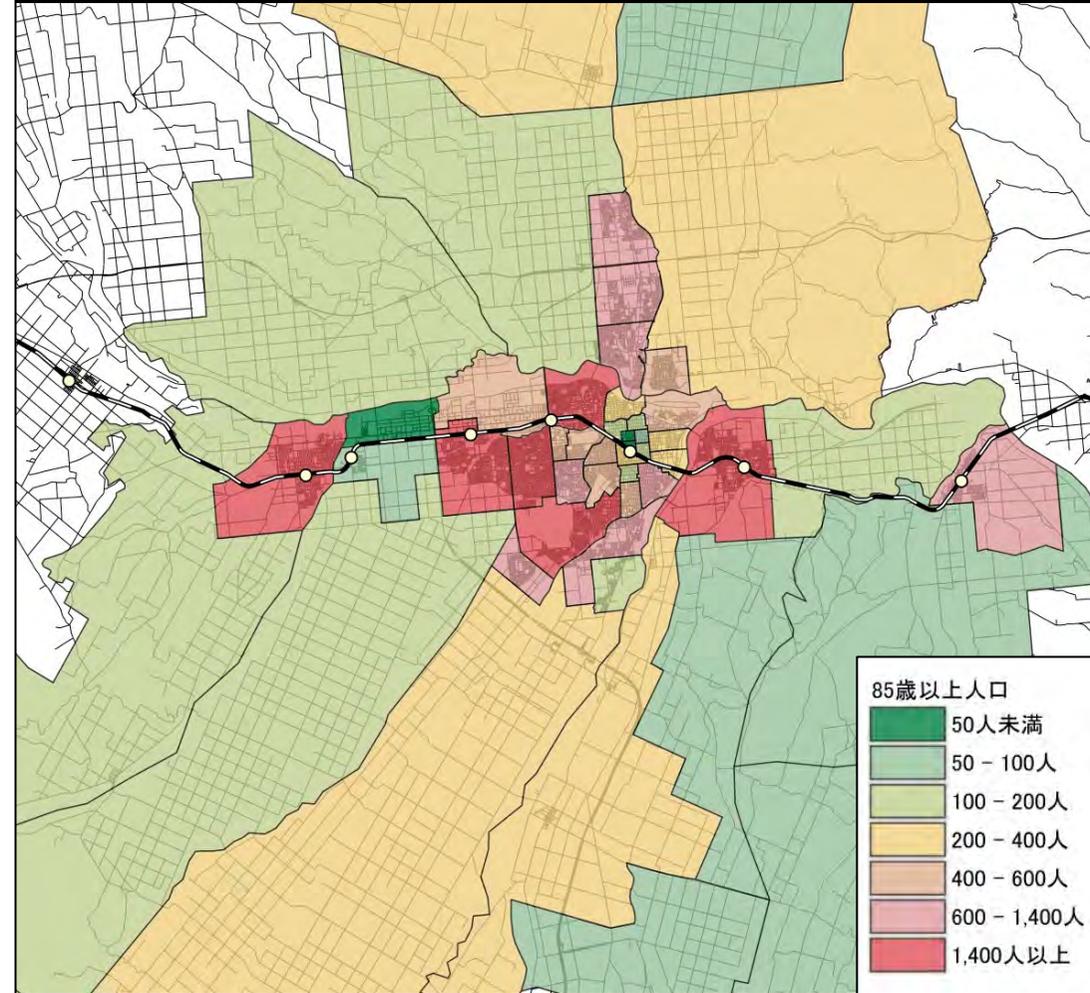


参考データ【85歳以上人口】

令和2年85歳以上人口（令和2年国勢調査結果）

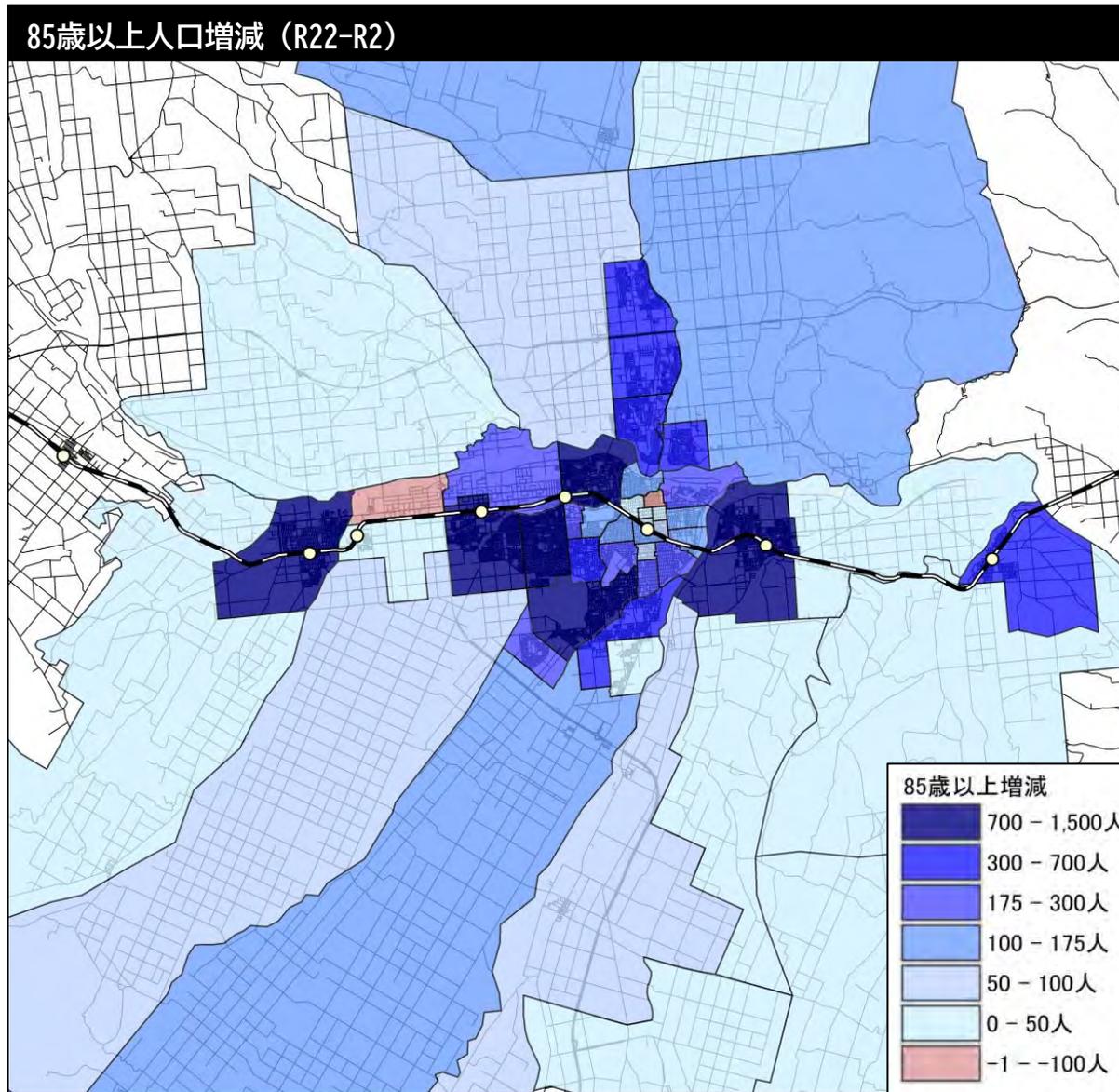


令和22年85歳以上人口（国立社会保障・人口問題研究所推計値）

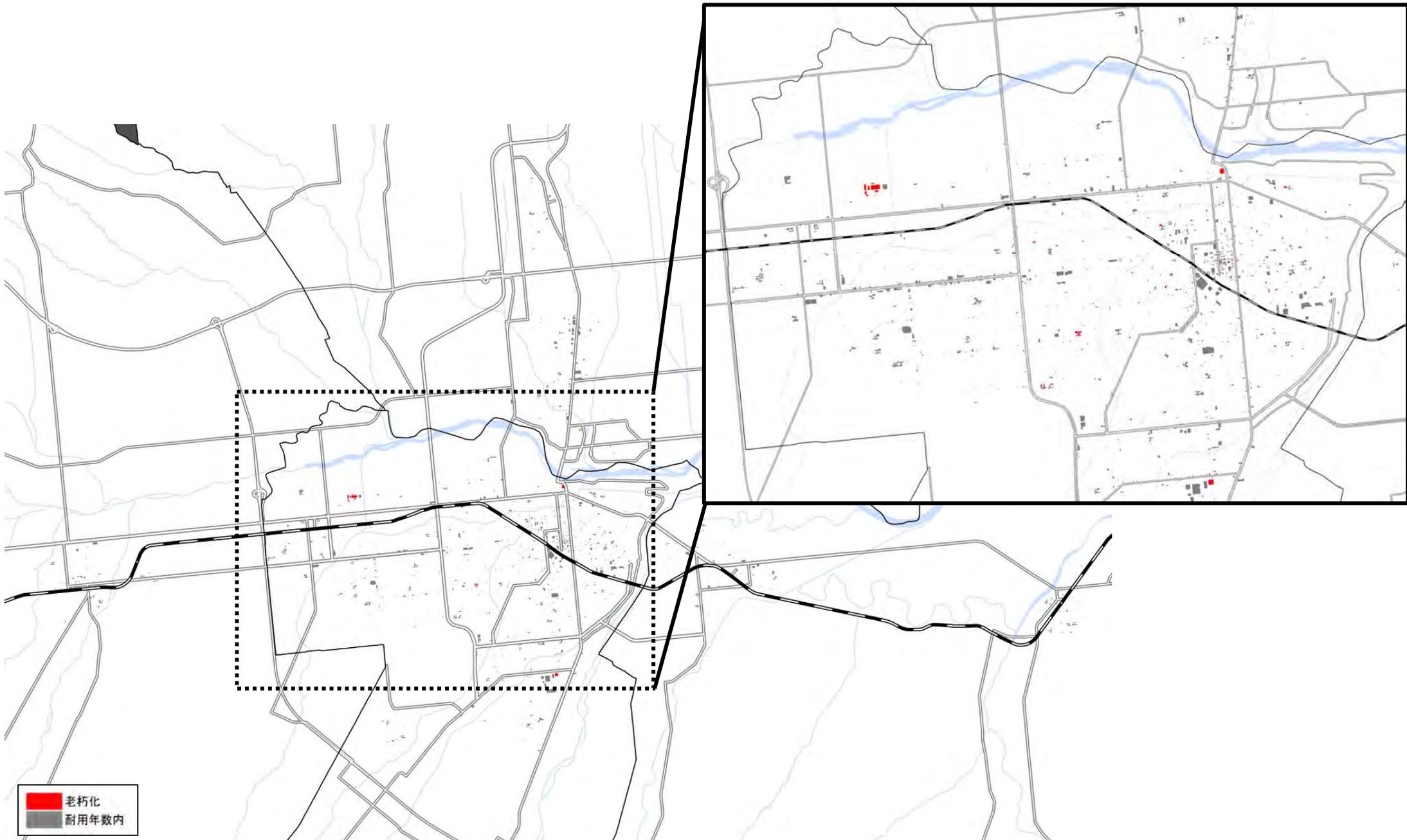


参考データ【85歳以上人口】

▼将来の85歳以上人口について、帯広西地区や帯広南地区、帯広北地区、音更木野地区、芽室本町、幕別札内地区といった郊外部で増加する推計となっている。



参考データ【建築物の老朽化 令和6年時点】



参考データ【建築物の老朽化 令和26年時点】

